（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもの駅 とれいん			
○保護者評価実施期間	R8年　10月　19日	～	R8年　11月　2日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	35
○従業者評価実施期間	R8年　10月　19日	～	R8年　10月　23日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	R8年　11月　2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による評価に基づいた個別支援	言語聴覚士や作業療法士による専門的な評価を行い、個々の発達状況や特性に応じた支援計画を作成している。	定期的な評価と職員間の情報共有を継続し、支援の質の向上を図る。
2	保護者との連携と相談支援の充実	支援後の面談やLINE等を活用し、家庭での様子や発達状況を共有している。保護者の相談にも随時対応している。	家庭での具体的な関わり方の情報提供を充実させ、保護者向け研修会等の開催を検討する。
3	こどもが安心して楽しく通える支援環境	こどもの興味や発達段階に合わせた活動を設定し、遊びを通して意欲的に取り組めるよう工夫している。	こどもの主体性を大切にしながら、活動内容や教材の充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	面談・活動スペースの確保	利用時間が重なる場合、面談や活動のための十分な空間を確保しにくいことがある。	パーテーション等を活用した空間の区分けや利用時間の調整を行い、落ち着いて活動・面談ができる環境を整える。
2	保護者支援や地域・関係機関との連携の充実	個別の相談支援は実施しているが、保護者向け研修会や交流機会、関係機関との継続的な情報共有が十分ではない。	保護者向け勉強会の開催や交流機会の充実を図るとともに、園や学校等との情報共有を積極的に進める。
3	安全管理に関する情報共有と周知	避難訓練や安全対策について、保護者への情報提供が十分に伝わっていない可能性がある。また、ヒヤリハットの報告件数が少ない。	訓練の実施状況や安全対策を保護者へ定期的に周知するとともに、ヒヤリハットの報告・共有を促進する。